

『亀の歩み』

浦島 亀太郎

この文章は、2002年12月16日に東京都内某大学のA先生の講義に於いて、約80名の学生の皆さんの前でお話しさせていただいたものに、加筆をしたものです。

この場をお借りしてA先生ならびにお聞きくださった学生の皆さんに感謝の意を表し、御礼申し上げます。

これから、事故の後遺症で、ご覧のように、杖をつきながらのろのろと歩くことしかできない私が、今、何に取組み、何を考えているかをお話いたします。

まず最初に、みなさんにお断りしておかなければなりません。

私は、このような公の場で話すことに慣れていませんので、上手に伝えられるか不安です。また、突然、自分自身がこのような体の状態になってしまい、それ以前とはあまりにも変化してしまったことに、心も体もついていくことが出来ず、しばらくの間、引きこもり同然の生活を送っておりました、その間に、脳細胞がいちじるしく死んでしまったようで、健常者当時のようには頭が回転しませんので、話しが飛ぶ恐れがあります。その点をご了承いただいて、お聞きになっていただきたいと思います。

これから1時間あまりお付き合いくださり、つたない話の中から、何か感じ取っていただけると、おばさんは幸せです。

平成10年に私は法定規則を守って赤信号で停車しているところに追突されました。乗っていましたが4ドアの車でしたが、背中にトランクがきてしまったようなひどい事故でした。事故直後には、痛いとか動けないとかの症状は無かったのですが、救急車で運ばれているうちにだんだんと痛みが出てきて、次の日には痛くて起き上がるのもやっとになりました。その後、少し回復して、それ以降、だんだんと今の状態まで変化してきました。

今の私の状態は、動きに問題があるのではなく、感覚の麻痺と痺れが問題です。

障害者手帳には、肢体不自由2種3級、右上肢は『全ての手指著しい機能障害4級』、右下肢は『著しい機能障害4級』となっています。

見た目は、ただ立っていると誰も障害者と気が付かないでしょう、杖を持っていなかったら障害者には見えないと思います。私の右手は基本的には動きますが、重い物を持つことが出来ません。

ある医者言うことには、頸椎捻挫、胸椎捻挫、腰椎捻挫、それぞれの場所に炎症が起きているとのことでした、身体の右側は全く痛い事を感じませんし、熱さも感じません、先日も、料理中に熱い油がこぼれて火傷をしたのですが、その時には気づかず、後でお風呂に入った時に気が付きました、冷たさも感じません。

身体の右側は、腕は肩胛骨付近から指先に向かって、常に強くなる痺れ、たとえば正座を長時間した時の足の状態のような痺れがあります、足も同じです。

利き腕である右腕が悪いのですが、箸が持てないというわけではなく、握力の持続というか、長時間持っていることが出来ないのです。

私は往生際が悪いのでしょうか、どうしても、利き腕を使いたい衝動に駆られて、使ってみますが、例えば、スパゲティーをいためますと、出来上がる前に筋肉の硬直が始まって、箸は落ちてしまい、あわれスパゲッティは丸焦げの状態になります。

つったような感じがいつもあります。ゴムを手にくるぐる巻いてちょっと時間おくと紫色になりますよね、皆さんそれで体験できるかもしれませんやってみてください。

右が感じない分左が代わりに感じてるようでして、痛みなどはとても強く感じます。痛く無くても強く痛みを感じる時もあります。疑似痛とでもいうのかしら。そんな現象が私の体にはいつも付き纏っています。また引きこもりのような状態の時に、太ってしまいまして、その後歩き回るようになった結果、障害の無い左側の足の裏に炎症を起こし、今は痛くて杖ナシでは歩けなくなっていました。

事故の後、保険会社での後遺症認定の為に全部で5ヶ所病院を変わっています。

まず初めは、救急車で運ばれた病院、ここはレントゲンも撮らずに、ムチウチでしょうの一言で帰されましたが、翌日歩けなくなったので、近所の病院へ診察を移ります。ココで初めてレントゲンを撮り、その結果ヘルニアが発見されます。先ほどの捻挫などの診断が下されましたがそれだけでした。ココのリハビリ科の先生はコレが神経を圧迫しているのではないかと、疑っていましたが、整形外科の先生はおかしいな？と首をかしげるだけ、まして身体障害者手帳の申請など、口にする事ありませんでした。当時はちょうど今、一審で死刑判決の出たH・Mの事件のあった時で医者もとても慎重になっていたようです。実際に動けない者を前にして、ハッキリ言葉にした医者もおりました。整形外科とリハビリ科の医者とは医学上の連携が取れていないのか、どこの病院でも、医者同士の食い違いがありましたね。整形外科はリハビリしようかと言って、リハビリ科へ行ってみるとリハビリ科の医者は、もうする事が無いという、おまけに初見のときに、疑っているのか、人の右手を痛覚検査なのかひどくつねって青あざの点々とラインが出来てしまう事もありました。整形外科の先生がリハビリを勧められたので、リハビリ科へ行くと、リハビリの先生が『どこがどうなりたいの、あんた障害者手帳持ってんでしょ、それは、もう治んないよと言う証拠だからココで何して欲しいの？』といわれることも何度もありました。

次は保険会社に対応する為だけに行った新横浜にある労災病院です。ここでも変わり映えはなくて、診断名はムチウチ症のまま診断は変わらずに、心療内

科に通うよう諭されただけで終わりました。

病院へ間断なく通っている間は仕事のことなど考える余裕もありませんでした。

事故の時には、結婚をしていたのですが、体が動かなくなると動けない奴はお払い箱という感じで、子供と2人追い出され、母子2人の生活となりました。まだ保険の休業補償が払われているし、示談の時の交渉で、コレだけ動けないような後遺症を与えられたから、保障はしてもらえらるだろうくらいにしか考えていませんでした。

それは本当に浅はかで甘い考えで、医者には後遺症の認定を下して貰うと、保険の休業補償も認定月で終了してしまい、その後は示談までお金がおりません。

私の場合は事故の時に救急車で運ばれた病院があまり良い病院では無かったらしく、レントゲンも取らず“ムチウチでしょ”の一言で帰されて、次の日に別の病院で見てもらったのですが、自動車保険のシステム上では、初診の病院の診断が最優先なんですよ。だから私のように、今は認定されて障害者になっていても（認定は去年5月）、当時はムチウチ症扱いですからリハビリセンターなんていけないという状態になって初めて、事の重大さに気が付きます。そこからあわてて市役所に生活保護の申請をしに行きました。

そこで今度は、お役人の横柄な態度に出会いました。いかにも自分が保護をしてやる、自分が保護費を払ってやっているくらいの態度で接しられて苦痛でした。皆さんも一度行かれると感じ取っていただけるのではないのでしょうか。そこで申請に行きましたが、保険での保障があるであろう人は、生活保護を受けられません。駄目です。というのが最初の答えでした。

ですから、保護が受けられるようになるまで、手持ち2万円しかないのに3ヶ月待たされ3年生の息子と粉を食べて過ごし、その状況を地域の議員に訴え、やっと保護金貰えるようになりました。世間を良く観察したり、知ろうとしなかった代償であると、こうなって初めて思いました。健常者の時はまさか自分が生活保護を受けて生活する事になるなんて考えもしませんですから、こうも窮屈で制限された生活であることは予想もしませんよね。

まず車は贅沢品です。今、生活の糧の手段となるパソコンも贅沢品の中に入っています。毎月、10万円程の生活費ですが、足を引きずって、左手で杖をついて、右半身は握力の無い私が毎日の食料の買い物をどのようにしていると思いますか？大体重いものが持てませんので、食材の宅配に頼っています。これは、配達料も取られますし、食材そのものが、安売りのスーパーで買うものより割高です。本来なら、安い生活費ですから、安売りのスーパーへ買い物に出掛ければ、毎月助かりますが、世間的にも、制度的にも障害者であって障害者として何の保障も無い、私くらいの障害者は、保護する家族や手伝ってくれる人がいなければ、このように高い買い物をするという矛盾した現象の中にあるはずですよ。

生活保護の関係上、何もする事はありません、ただ薬を貰いに行っているだけ

の病院で、アメリカ帰りの医者に見てもらおう機会を得て、その先生が言うには、アメリカや諸外国では、外傷性のヘルニアやその他圧迫による神経の麻痺が起こりうると診断されるようになってきたので、病名がなんていったか長いので覚えていませんが、その先生が初めて、このような状態なんだから、一度身体障害者手帳の申請をしてみたらと言ってくれて、ここで身体障害者手帳の交付を受けます。

そこで、初めて障害者福祉の手引きという冊子を貰いまして、職業訓練校の存在を知りました。ココでは、勉強しながら訓練費が貰えるので職業訓練校に通って、生活保護から抜け出したいと思ったのと、PCの勉強をして職に就きたいとの思いで、生活保護課に訴えたら、中卒以下ではないので駄目だと断られ、入る事は出来ませんでしたけれど、それなら自分で作ってやると意気込んで、あっちこっちを無駄に動いてあたふた、そんな頃友達になった人の旦那さんが自宅でデザインの事務所をやっていて、私は画家の父譲りで絵画とか興味がありましたし、デザインなどにも自分で言うのも何ですが、健常者の時は賞を取った事もあるセンスの持ち主と自負してましたから動きの鈍い手でも、PCなら何か可能性があるのでは？とお聞きしたので、単純な私はPC、PC、これなら何とかかなると思ひ込んだら一直線！で、生活保護課に参りました。しかし返答は何をバカな事を贅沢品ですから駄目とお決まりの返事。

担当の人に懇々と生活保護を切るために仕事を必ずするからと、何度も頼み込みやっとの事で例外（貰い物なら良し）でPCを手に入れる許可を得ました。それに職業訓練校の存在も障害者になってから知ったんですよね、職訓はお金もらえるのも知らなかったし、貰っても生活保護対象者は保護金から引かれるんですよね、貰ったお金分を子どもが働いても同様です。いくら働いても、引かれてしまっは保護を受けているのと少しも経済的には変わりませんから、働いてもしようがないと思う人がたくさんいるらしいのです。

この連鎖が保護からの脱出を阻んでいると感じているのは私だけでしょうか？健常者で最近ハリストラの関係で保護を受ける人が増えてるそうですが、私は本当に行きたかったんですよ職業訓練校・・・私には社会のシステム上、勉強を受ける資格がありません、したくても出来ない。自立さえもシステムでは許されていない、社会から隔離された所にいます。『それなら自分でそれを作ってしまえ。』が今の私を支えて行動に繋がっています。

皆さんも一度体験として、生活保護の申請に行かれると、役人の横暴な態度が体験できるでしょう。

そして、さあやってみようと思っても、そんな簡単では無いですね。学校には行けないし、自分では何をして良いのか分かりません。その時運良くと言うか新聞記事で、ココは障害者の母親達で作った、プロップステーションというNPOの障害者へのPC教育の記事を見まして、新聞社に連絡して連絡先を聞きだし、そこの代表の女性に電話をしました。そこでの返答はうちでは一般の中途障害者を相手にはできません。代表はあなたのような一般の人が話を簡単

に出来るような人ではありませんとの事。

その時思いましたね。障害者にもランクがあるのか、確かに障害の程度の差はあるだろうけど、障害者どうしてランクをつける事もないのにと、落胆と憤慨を覚えました。そうして次に新聞で目にしたのがWeCAN!、現理事長の上條さんという方の新聞記事です。障害者が障害者の為に在宅就労を進めているといった内容の新聞だったと思います。早速、新聞社へ連絡先を問い合わせ、上條氏に連絡をしました。この方は快く対応してくださり、長い話の中ですぐに仕事が貰えるような事を言ったので、すぐに仕事を貰えるのかと勘違いして、パソコンを購入しましたが、そんな甘い事はありませんでした。ココは自分で仕事を見付ける為の講習などもしているよ。斡旋している訳ではないヨという感じを受けたので、仕方が無く健常者の団体で横須賀SOHOの会に入り、入力 of 初仕事をしてみました。しかし、全てが健常者の中での仕事は、健常者が1日に8時間で出来る仕事は私のように不慣れで、手が思うようには動かない障害者には朝までかかってやらなくてはいけないほど大変でしたが、出来上がって納品したその日に『クビ』を言い渡されて、そこでWeCAN!のメーリングリスト、メーリングリストはメールとかなさる人はご存知と思いますが、そこに愚痴をづらづら書いて投げつけたところをWeCAN!の顧問である横坂氏が拾ってくれまして、仕事をしたいけど、する所が無い、かといってどこで見つければ良いのか分からない等メール上で話をする中でbusiness 0 1というメーリングリストが出来て、そこでテープ起こし等を題材にOJTという場所をつくって貰ったんです。そこでいろいろな人と出会いました。

健常者から、障害者になった事で今まで見えなかった事がたくさん見えるようになりました。

健常者だった頃は、自分は障害者の事など考えただろうか 答えはNo!です。そりゃ電車で寝たフリした事はないです。ちゃんと譲ったりはしてました。でも付き合いをするなんて考えた事はなかったです。それに今の現状と同じで、保護しようという心が、大半以上いいえ、全てだったと今、言えます。

私は普通に立っていれば、障害者には見えませんが、本当は今も座っているのが辛くなってきましたが、長時間の同じ姿勢などが苦手です。ぱっと見に障害者に見えませんかから出かける時、当然満員電車で席を替わっては貰えません。

なので、席とりしてくれる息子同伴で無いとあまり電車は乗りませんね。バスは、障害者手帳の提示が必要でいつも手に持っているから、意地悪くとかあつかましくと言うかわざと見えるようにしたりして、ちょっと姑息な手を使ったりしますし、変わってくださいと声を出している事もあります。

一步一步しか進めないけど動いたり疑問を投げかけて解決の為に声を発して行かないと何も変わらない。

私の体験がいろいろな人の役に立つならば何でもお話していこう。自分がこうなった時は(重度の方ごめんなさい)ほんとに不幸のどん底に、ここがあの“地獄界”なのかという考えにとらわれて家から出られなくなったり、健常

者の言う事なすことがあんたは動けるからそう感じるのよ！なんてすっかり世捨て人。

でも障害者になってはじめて経験豊富にしてくれた、私の運命と言うか宿命そのものに“感謝”していたりしてます。それから自分は話しが出来るし遅いけど歩けるし、行けるとこは這ってでも行って中途半端な中途障害をもった一人として訴えていこう、どんなところでも話をしようと考えが変化してきました。この数ヶ月の間にいろいろな人と出逢った。

仕事が無く、生活保護で勉強も出来ない立場で、障害年金をもらい、いわゆる難民にあたる立場を嘆いている時には、外にも出ずに家の中で、動かなくなった足や手を見つめている毎日でした。健常者当時の、お客様のいるところ、西は名古屋、北は栃木県まで車で闊歩していた頃に思いを馳せ、リハビリも受けられないからと何もしなかった。

職業訓練校にも生活保護課から、駄目出しを喰らって、ようし！自分で作ってしまえと思ったのが、去年の春。いろいろ考え動いても見たが、所詮は一人とにかくやろう！と思えたのは、WeCAN！で知り合った小林礼ちゃんと言う脳性麻痺の女の子のHPを見たとき。健常者当時に見ていたら、すごいねで終わっていると思う、障害者の就労という事を考えて悩んだ立場で見た時には、このような事が出来るのか、という目で見ることが、始めて出来ると感じました。テレビで有名なO君など、見た目はとても、もの凄い障害に見えますけど、障害者扱いもされない私から見れば、恵まれた障害者であります。サッカーはするらしいし、車の運転もしますし。

でもどうですか？ 子供を抱えて、一番働いて収入を得ていなければいけない立場の私は、古臭い制度や、障害課、保護課といった横の繋がりなのさといった、いろいろな事柄によって、自立そのものを阻まれているという現状があります。

そういった事は、その事を体験し、見聞きしたもので無ければ、訴える事も出来ませんので、そういった意味も込めて、私は、外へ出て行くべきだなと感じています。

障害者が、社会参加するのは、現実に難しい事もたくさんあると思います。それに関する事は、今年私の住んでいる団地の自治会長から、社会参加と叫んでいるのだから、参加して貰いましょうという話がありまして、何カナと思いましたが、毎月第2日曜の朝9時からお掃除があり、それに社会参加として出てくださいとの事、おまけに不参加の方には1回につき1,000円の罰金を徴収させていただく事になりました。というのです。そのお掃除は草むしりや排水溝の掃除などちょっと体に負担のかかるような掃除が多い、なので私はその掃除に参加しても出来る事が無い、その事がとても心の負担になっていました。この団地に越してきて3年、息子が代わりに参加していたけど、今年中学になり部活動の為に代わりは出来なくなった。

やれやれどうしようかと考え中に追い討ちのように回覧版にて『この度、自治会に於きまして毎月の清掃に理由の如何に関わらず、不参加の方には1回に付

き1,000円の罰金を徴収させていただく事になりました。』という文が流れてきた。

5階に住む視覚障害の奥様はお金で済むならと喜んでいる。同じ階の高齢者も同様に喜んでいた。『他の団地も取ってるし、賛成多数だし、毎回出ない人決まってるから。』と訳分らない回答に不満は残るが、お金を払って皆様に代わりにお掃除をして貰うのだと割り切って罰金としてではなく御礼として支払うしかない。『罰金』の文字が気にいらなくて抗議したが、聞いてもくれません。そんな認識なんです。

私自身も、健常者で障害者との関わりがない時代なら、可哀相とか、どのように接して良いかわからないし、お金でも払って貰えば、参加したのと同等で、等と考えたかもしれません。冷たいようですが、かかわりを持っていなければ、そのくらいの考えしか浮かびません。今になって言える事ですが、どうか皆さんは話を聞く態勢で、一緒に考えるという土俵の上で物を考えて欲しいと思います。

人の心には伝わって無いところもたくさんありまして、エスカレータ、あれ東京では左の方に寄って、関西は右の方に寄りますが、わたしの様な杖を突いた障害者はどこに立つのがベストだと思いますか？実は真ん中が良いのです。あれ端によると杖がつかえて危ないんです。真ん中に立っていると邪魔だとも言いたげに駆け下りて行く人たち、私たちサイレント障害者は危険！な思いをした事があります。先日ビックサイトという大きな会場へ展示会のようなイベントで行った時に、あんな大きな建物なので、さぞ大きなエレベーターが付いているだろうと思いましたが、車イスが一台乗って、介助者が乗ったら後は誰も乗れないような物だったり、新橋駅のホームに車椅子でたどり着くには、何度もエレベータを乗り継いで、それも遠回りしながら、行かなくてはホームに行けない。電車に乗るのにも、一緒に同じ時間に同じ場所に行きたくても、込んでいれば、次の電車にしてくださいと言われる。何故でしょう。健常者では他の車両に乗る事が出来ます。何か方法考えて出来ない事なのでしょう。世田谷に行った時も、ビックサイトに行った時も、車イスの人は、電車を次のにまわされたり、エスカレータを降りる時は厄介物の見世物のように、エレベーターのない所ではなっていました。

私も含めてそうですが、健常の時には分からないんです。今こうなって初めて、気持や行動の制限への苛立ちなど、体験して初めて、こうすれば高齢者も小さい子供も、障害者を対象に作れば、皆が使いやすいのにと考えられるようになりました。

うちのそばの信号は、うちのマンションに全盲の方が住んでいまして、もう一人近所に全盲の方がおり、この方が尊い命を犠牲にした事で、やっと付きました。その前からも付けて欲しいと言わなかったら、永遠に付かなかったでしょう。今でさえ、夕方6時過ぎると音が消えます。普段も音がこれで聞こえるのか？というくらいです。信号周辺の住民が、音が五月蠅いと言っているからです。どう感じますか。こんな事許しておけませんよね。でも全盲の人は迷惑か

けているのは自分だから、と消極的でした。

しかし、周辺住民だって高齢になれば耳も遠くなり、目も老眼になれば必要になるではないですか。今は聞く耳を持ちませんが、あきらめる事は全ての可能性までも閉ざしてしまいそうなので声をあげていきます。

『黙っていても変わらない』を痛切にこの何年か体験しました。言っても変わらないものもありますが。言わないで居ると、感じもしない人が多いということ、悲しいけどそれが現実。日本は今まで障害を持った子供を親は守るのに必死で隠す傾向にあったと思います。最近は福祉福祉と騒がれているけど、騒いでいるだけ何も分かっていないのだなとこの数日に再認識しました。

私の尊敬する方は次のように仰っています。

『理想を語る暇があったら、今実現可能なことをひとつひとつ実現する対象を見付け出し、実現に着手するべきです。その時に、何が誰にとってどのようにバリアになっているかを具体的に明示することは原点ではないでしょうか。事実データが沢山集まれば、それだけでテーマは決まるでしょう。』

障害が2種3級の為、料金の割引なんか無い事も障害課なら知ってても、他になると全然知られていない事ありますしね。地下鉄などは全て障害手帳の提示でもれなく（切符の場合）半額ですけど、定期の場合は健常者と同じなんて、あげればキリの無い事、車についても運転は出来ますが（多分！）保護の関係からは持てないので愛車は廃車いたしました。物を買うのは宅配が主になって高い物を必然的に買わざるを得ない。つまり見た目だけでは何も判断は出来ないという事で、健常者となんら変わらないという事です。しかしだからと言って健常者と同じにしると言うのではなく、そういう自分に何が出来るのか、出来る事はあるのか、やってみたいがどこへ行けば出来るのか、など情報やそれに触れさせる機会の提供を求めることをしていく事が大事になるのではないかと思います。

いまは保護の名のもとに、マイノリティの隔離と同じ事が行なわれているように感じます。これは障害者である当事者もそうですが、親であったり、行政であったりの形の違いはありますが、そこが一番の障壁になりうる事例なのかなと、とても感じます。

私のお友達である小林礼ちゃんは、HPのデザイナーでもありますし、大学の論文も素晴らしい物を書いておられます。

コレだけ聞くと皆さんは、きっと車イスに乗っただけの障害者だろうと想像するのではないのでしょうか。でもこの方は、いわゆる脳性麻痺の重度障害者で、言語障害も伴っていますので、見た目には、コミュニケーションに苦勞する電動車椅子の気の毒な障害者ですが、一人で自立して（食事などの介助は必要ですが）生活し、ちゃんとSOHOも開業している商売人です。仲間と楽しくお酒を楽しんだりします。

言語障害という日本語もおかしなもので、この人は目も耳も頭も並以上ですから、メールならば全く不自由なく言語を駆使します、それでも指は自由になりませんので、特別なキーボードですが。ですから、障害の種別としては言語障

害ではなくて、発声障害と表す方が良いと思っています。
こんな素晴らしい人がいるのですが、もちろん、本人のやる気が一番大きな要因でしょうが、親がきちんと将来を見越して、お育てになった事が多大な影響を持っていると思います。

先日、12月14日の土曜日に、ダウン症と言われる子供ではなく、大人の人のパソコン教室へ臨時の講師として参加しましたが、そこではほとんどの人が、隣に母親が付いていました。私が教える時に、本人に直接話しかけても理解している事が分かったので、お母様にあえてヨコから口を出さないようお願いして進めるうちに、受講している人達のやる気がどんどんアップしてくるのが見て取れました。

本当に自分で作った、この時は年賀状ですが、出来上がる過程の中でも喜びがあふれ又、やりたいという声が聞こえて、帰りには、母親達のこんな笑顔は初めてです。という声も聞く事ができました。

こういう事例が、他にもあるのでは無いでしょうか。だから、障害の障壁はいろいろなところに潜んでいて、それを気付くチャンスに恵まれていなかったのが、現在までの障害者であったと思います。

街中の障害。バリアフリーと言われる状態に付いても、私のように杖をついているものには、ダスキンのフロアマットは危ないとか、あれ足を引きずって歩く私には引っ掛って危ないのですよね。それとか視覚障害のある人には、点字ブロックはかかせませんが、あれもわたしの様な者には障害です。じゅうたんの敷き詰めたフロアも危ないですし、大理石できれいに磨かれた、靴のすべりのいい床も杖には滑りすぎて転倒した事もあります。あげると世の中生きていけないぐらいの障害があるんですね。そういった事も、家にいて、家族がやってくれて、与えられるだけの障害者では、気付くまでの時間の差が、外に出ている障害者と如実に出てくるのではないかなと実感します。

ですから、最初に戻るようですが、わたしが、生活保護を受ける為に諦めなくてはならなかった学校、職業の訓練をする場所を欲する意味が分かっていただけたでしょうか。そう言う場所が、いつも誰が来ても、仲間がいて出来る。それぞれ在宅で仕事をしていても、そこにいけば何でも話せ、情報も得る事が出来るような場所。

そんな場所を作っていきたいと、願って3年ようやくその小さな芽が芽生えるかなというところへやって来ました。自分のグループ名『職育工房～遊音～』、遊ってという字は『どこにでも出かけて行く』、音という字は『発言を惜しまない』、そういう2つの意味を重ねた名前です。それが今、現実に動こうと、卵の殻をつつき始めた気がします。後ろ向きで、嘆くのではなく、嫌な事もひっくるめ、どんなに笑われようとも、バカにされようとも、野次にも負けず、声を出して行くことで、出会いがあったり、助言があたりします。

障害者それはいろんなランク付けが国からされているけれど、不自由なものには変わりが無い。体半分の機能麻痺も上下なら重度、右左のどちらかだと中度

で、障害者にとって仕事できないことには変わりがない。だけど重度以外は補助が受けられず困っている人達が大勢います。その中でも中途から中途半端な障害を受けてしまった人達の考えることは、もう一度納税者に戻りたい。そこで、考えられる仕事はパソコン利用の仕事、なぜITなのかと言うと、コミュニケーションを取れないであろうと思われた人でも、使って見たら出来たと言う人の存在を目の当たりにしたこと。

いろんな人の声を合わせて、障害者は社会の障害な存在じゃないと言うのを目にする事で、役所・職業安定所・職業訓練校その他もろもろ、いろんなところから総スキャン喰らい続けた私が、パソコンも性能新しくない、ソフト買う金なし、インターネット電話代請求恐くて見られない、などなど、3ない、4ないもっと無い人間がいろいろなところに関わっていくことで、見えたこと、経験したことを情報として流していけば、皆さんのように、将来福祉の関係やいろいろな場で活躍する前の人に伝えておけば、その人が建設を行なう時に、あの障害者がこう言ってたな、ああ言ってたなと頭の片隅に有るだけで、違うものが出来ていけると思います。

過去より今からを大事にすればバリアフリー、ユニバーサルデザイン、ずいぶんとポピュラーになって、日本をもっと良くできるのではないのかなとおばさん障害者は思います。

横須賀の障害者センターは健常の人でもタクシーに乗って行きたくなる、そんな坂の上にあります。40年前に出来たそうですが。電動車椅子なら少しは昇って行けるでしょう、そうで無い人は？

建設計画の時から障害者が関わっていたら、『こんなところじゃ行けないよ』と、こんなところには建たなかったはず。今までは自分には関係ないと思っていましたけど、ML仲間の障害の状況等をメールでの雑談で読んだり、逢って見て一緒に行動して初めて、黙っててはいけないのだ！と感じる事が出来まして、イケイケ時代の自分が甦り、活動の幅を広げる事が出来て、この場でお話をする事を許されている現実。

何かの新聞に、『～さえ、こうだったら、のいい訳は自分を縛る鎖』『不可能？誰がそう決めただ！』という見出しが書いてありました。それ読んで“そうだがんばろ！”と思ってしまったのです。あげればきりが無いくらいの、矛盾国日本ですが、それはやっぱり発言を控えてきた障害者やその親達に一因があると思います。

どうかみなさんと一緒に、関わりを避ける事を考えるだけではなく、関われることはおおいに関わりを持って、一緒に考えられる事、一緒に考えられる場所を見つけて、出来れば障害者の人達と共に歩んで、障害者だから出来ないとか、出来るとかそのような枠組みを作らない社会のあり方を説いていかれたらと思います。